十文字学園女子大学・短期大学部
The Jumonji Press
新座キャンパスだより
No.42
2013.10

特　報

1 ハワイ大学と十文字学園 相互交流協定に調印
2 十文字大元氏から授かった2つの縁
3 十文字学園杯女子ジュニアサッカー招待大会/バレーボール大会
4 就職支援2013 インターンシップ体験記
⑩こちら学生編集局/国際目線で綴るWEBマガジン発行のお知らせ
⑫十文字ニュース　⑯若桐会だより
⑰平成24年度 決算の概要　⑱公開講座のご案内　⑲最新入試情報

Information

第47回 桐華祭開催

今年で47回目を迎える桐華祭が10月26日(土)・27日(日)に開催されます。当日は研究発表・展示、ダンス発表、模擬店を実施。2日目には、ハイキングウォーキング、ジャングルポケット、ジューシーズが出演する「お笑いミニライブ」、桐谷健太さんが出演する「トークショー」が開催されます。学生はもちろん、家族連れまで老若男女が楽しめる学園祭に、皆様是非お越しください。
(写真は昨年第46回開催時の様子)

ダンス発表	26日(土)11:30～ 無料 観覧自由
お笑いミニライブ/トークショー	27日(日)12:30開場、13:30開演、チケットはチケットぴあにてお買い求めください (1200円、当日券なし)
問い合わせ	●チケット：実行委員会イベント局：090･6048･1702(平日･土 12時～17時) ●学 園 祭：学生生活課：048･260･7735 ※車でのご来場はご遠慮ください。

十文字学園女子大学・同短期大学部

保護者会 in 浦和のご案内

保護者の皆様から本学の教育や学生の自主活動への指導など全般についてのご要望を聴き、また現在本学が目指している改革への理解を進め、併せて本年度の就職状況をご報告することを目的とした「保護者会 in 浦和」を開催します。多数の保護者の方のご出席をお待ちしています。

❶日　時
平成25年11月9日(土)　14:00～15:30
❷場　所
浦和ロイヤルパインズホテル　4階　ロイヤルプリンセス
〒330-0062　さいたま市浦和区仲町2-5-1
交通　JR浦和駅西口から徒歩7分
❸申し込み
10月30日(水)までに、学生生活課にお電話(048-260-7735(直通))で、学生氏名、学籍番号、保護者氏名をご連絡ください。

修学支援のための寄附のお願い

本学では、経済的理由により修学困難な学生に対する支援として、授業料免除に加えて学内奨学金の制度を活用しておりましたが、これまで主に卒業生、保護者、教職員の寄附で運営されていた学内奨学金をさらに進化させ、広く地域社会や企業等の皆様からも御支援を賜りたく、学生の奨学資金を主たる目的とした寄附金を募るために新たに「十文字奨学金」を設立することにいたしました。

新しい「十文字奨学金」は本学の学生のうち、学業及び人物が優れており、かつ、経済的な理由により修学が困難である者を対象としています。奨学金の給付額は、1人について50万円とし、返還義務はありません。

今後も我々は学生支援のための一層の努力を行なってまいる所存でありますが、さらに充実した学生支援体制構築に向けまして、趣旨を踏まえ、何卒皆様の温かいご寄附を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

※十文字学園女子大学・同短期大学部へのご寄附は、税法上の優遇措置が受けられます。詳しくはHP上にて説明をしておりますが、ご不明な点は本学寄附係までご連絡ください。
http://www.jumonji-u.ac.jp/(十文字学園女子大学・同短期大学部HP)

学校法人十文字学園 理事長　十文字一夫
十文字学園女子大学・同短期大学部 学　長　横須賀　薫

編・集・後・記

1カ月半に及ぶ夏休み、みなさんはどのようにお過ごしになったでしょうか。学生編集局として、仕上がってきた初稿に目を通し、自分の知らないところで活躍している学生のことを知りました。

十文字学園女子大学・短期大学部は中規模な組織ながらも、さまざまな活動がたくさん集まり、ダイナミックに展開されている醍醐味を感じています。

おそらく次号では桐華祭の様子が誌面を彩ることでしょう。学生たちが本学最大のイベントに打ち込む姿をお届けするのが今から楽しみです。

乞うご期待!

(高根 利佳：編集長)

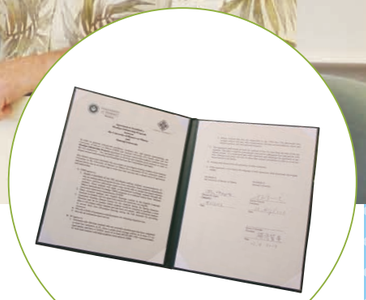
*『新座キャンパスだより』へのご意見・ご要望は、kohoka@jumonji-u.ac.jpまで。

表紙の写真
上：オープンキャンパス学生スタッフ　下左：十文字カップ試合風景　下中央：ハワイ大学との調印式　下右：学生表彰式

新座キャンパスだより第42号　2013年10月15日発行
発行人：木名瀬正行
編集長：高根利佳　　監修：大西正行
編集総務：三野裕子　編集事務：原 一彰
発　行：十文字学園女子大学・十文字学園女子大学短期大学部・十文字女子大附属幼稚園
〒352-8510 埼玉県新座市菅沢2-1-28
Tel. 048-477-0555(代表)

ハワイ大学と十文字学園　が相互交流協定に調印

女子教育のグローバルな進展をめざす十文字学園は、この夏、相互交流協定を結びました。同校は、約2万人の学生が学ぶ米州立大学屈指の総合大学。学術・教育分野など各方面にわたる相互交流、女子サッカー部同士のパートナーシップにより、多彩な交流活動が実現するものと期待されています。



名門校との協定で学生・教職員の交流に大きな期待

十文字一夫理事長を団長とするハワイ大学訪問団は、8月13日、ハワイ大学マノア校と十文字学園女子大学のホアキパ奨学金プログラム協定に調印した。今後、学生の留学や教職員の研修先として学術的・文化的交流の具体化を図っていく。

トム・アップル学長と十文字理事長・横須賀学長が調印

調印式は、同校の記念ホールで開かれた。ハワイ大学側は、トム・アップル学長、ダレル・キッカー国際交流センター長、サラ・オティス同主任が出席。十文字学園側は、十文字理事長、横須賀薫学長ら一行7名と、ハワイサッカー協会関係者等が臨んだ。

冒頭、アップル学長は、「これからさらに関係が深まることを強く望んでいる。学生や教職員の皆さんに早くハワイにお越しいただき、英語スタディの力になりたい」と期待を語った。十文字理事長は、「今後学生の留学だけでなく教職員の研修先としてもよろしくお願いしたい」と幅広い交流を願い、横須賀学長は、「学生にさまざまな体験をさせることが大事であり、今回の交流に大変期待している」と謝辞を述べた。

また席上、今後の本格的交流のため両校の協議会を設置することが確約された。

ハワイ州立大学マノア校

アメリカ合衆国ハワイ州オアフ島ホノルル市内近郊にあるハワイ州最大の大学。世界約80ヵ国、アメリカ全50州から、約2万人の学生が学んでいる。うち、留学生は約2000人、日本人留学生は約500人。観光・サービス関連学部、海洋学部に代表される自然科学、外国語の分野などは世界的に評価されている。

ワイキキビーチとマノア峡谷からも近く、海と山のアウトドアと都会の雰囲気の両方を満喫できる環境にあり、広大なキャンパスには、ハワイ特有の花木が育つ自然豊かなエリアとなっている。

強豪・ハワイ大学女子サッカー部とも調印

十文字学園サッカー部（中学・高校・大学：石山隆之総監督）とハワイ大学サッカー部（ミッシェル・ナガミネコーチ）とのパートナーシップ提携の調印式も行われた。ハワイ大学サッカー部はNCAAディビジョンIに属する、アメリカ全土でも有数の女子サッカーの強豪。

今後、十文字学園サッカー部がハワイに遠征し、両国の女子サッカーのレベル向上のため、指導者を含めた交流がなされることになった。また近い将来には、ハワイ大学サッカー部の来日も実現させる方向で話し合いを進めていくことになった。

パートナーシップ協定締結の経緯

ハワイサッカー協会主催の「ハワイインターナショナルカップ」は、これまでアメリカ本土カリフォルニアとカナダから高校女子サッカーチームを招待して親善交流試合を行ってきた。第9回大会を迎えるにあたり、日本から高校女子サッカーチームを招待できないかとの話があり、2013年3月、全国の高校女子サッカーを牽引する十文字高校サッカー部が招かれた（同大会で十文字高校サッカー部は優勝）。

これに先立つ1月末、ハワイサッカー協会会長からの親書を携え、セルジオ・ボリオリ副会長ら4名が本学園に来校。正式に今回の女子国際親善交流試合への参加要望、及びハワイ大学女子サッカー部との提携、また今後のハワイ大学との包括的提携の提案がなされた。

ハワイ州立大学女子サッカーチーム

アメリカの大学リーグ（NCAA）の1部に属しており、ビッグ・ウエスト（BigWest）でリーグ戦を戦っている。女子アメリカ代表フォワードのナターシャ・カイも学生時代はハワイ大でプレーしており、毎年注目を集めるチーム。ホームコートはワイピオ・サッカー・コンプレックスで最大4000人以上を収容できる。

石山隆之
サッカー部総監督

アメリカ女子サッカーは世界一の実力を誇り、女子サッカーの普及度もアメリカが世界一。われわれ日本サッカーが目標とする国です。そのアメリカサッカーとの交流は、十文字学園だけにとどまることなく日本女子サッカーにも有意義なことです。

ハワイ大学サッカー部とのパートナーシップ提携を通して多くの事を吸収させていただき、また日本の女子サッカー、十文字女子サッカーのよい面を多く伝えていこうと思います。

本学が故郷涌谷町と「相互友好協力協定」

相互を高める地域との輪

涌谷町で行われた調印式には、十文字一夫理事長、横須賀薫学長、町側から安部周治町長らが出席。本学として、特待生の受け入れ等の具体的な協力姿勢を伝え、町が力を入れている福祉面での交流等に期待を寄せた。

協定を結ぶきっかけは、十文字理事長が町内の見龍寺にある大元氏のお墓を訪れたことから始まる。久しぶりに訪れると、お墓は有志の方々によってきれいに清掃され管理してあった。十文字理事長は涌谷町の人々の心遣いに感動。「自分のルーツを見極めて、涌谷のためにできることはないか」と考え、協定が実現した。

4月下旬、関東は新緑も深まる時期になったが、涌谷町は桜が満開だった。調印式は和やかに行われ、その後の記者会見では、十文字理事長の涌谷町に対する想いが語られた。

横須賀学長は、今後、涌谷町が推薦する学生一人を特待生として大学に受け入れる目録を涌谷町へ手渡した。これを受けて、安部町長は、福祉や農業分野で学生と町の交流もしていきたいと述べた。涌谷町と協定が結ばれたことで、十文字学園女子大学の学生にとって、実践的な農業体験や、福祉関係への貢献など、学びの幅が広がるであろう。

横須賀学長が講演

協定調印後、涌谷町町民医療福祉センター研修ホールで、横須賀学長が「大学の賢い活用法」について記念講演。大学の歴史を振り返り、現在の大学がどのような教育を行っているのかを語った。十文字学園女子大学の学びの姿を涌谷町の方々に知ってもらい、今後、相互に活用していく方法を練る大切な機会となった。

新座キャンパスでも記念植樹

調印式から3週間後の5月17日、安部町長らは新座キャンパスを表敬訪問。十文字大一、こと両氏の銅像横で十文字理事長と記念植樹を行い、今後の連携について意見を交わした。

調印式の様子

記念植樹

学園創立者・十文字こと氏を支えた

十文字大元氏の「2つの縁」平成の地域貢献に結実

十文字学園女子大学と宮城県の涌谷町は平成25年4月26日、涌谷町役場で相互の発展のために福祉、教育、文化、産業、環境等の分野で協力し合う「相互友好協力協定」を結んだ。学園創立者十文字こと氏の女子教育に懸ける情熱を深く理解し財政的支援を惜しまなかった大の十文字大元氏の故郷が涌谷町であった「縁」が、埼玉県新座市にキャンパスを置く本学と涌谷町を結び付けた。連休明けには、大元氏が生前、心血を注いだガスメーターの上場企業・金門製作所とビジネス面で「縁」が深かった東京ガスのサッカーチーム「FC東京」と高校サッカーの強豪「十文字高校サッカー部」が連携して、将来の「なでしこ」を育てるために、小学校高学年女子を対象にした「サッカー教室」が開講。十文字一夫理事長は十文字中・高グラウンド（東京・巣鴨）の無償使用に快く応じた。大元氏にまつわる「2つの縁」は、創立90周年を越えたばかりの十文字学園の一層の飛躍と地域貢献を後押しするバネとなった。

（大嶋理恵記者）

東京ガス（FC 東京）との繋がりで小学女児サッカー教室が開講

失敗しても選手を責めない。マナーを大切にチームづくり

6月6日夕、十文字中・高等学校で行われた十文字学園とFC東京共催の「大塚十文字スクール」を取材し、指導の中心となっている川村元雄FC東京普及部コーチから話を聞いた。

十文字中学・高校のグラウンドは人工芝になっており、夜間にも対応できるナイター設備がある。隣では全国上位クラスの強豪十文字高校サッカー部の練習が行われ、新スクールに通う小学生の「なでしこ」の夢を盛り上げている。

現在在籍しているのは小学4～6年生の12人で、体験入部中の3人を含め合計15人。4チームに分かれ午後6時半から8時まで練習が続いた。

グラウンドを半分に分け対戦。みんなでパスを回し必ずみんなにボールが回ってくるようにする。そして、さらに速くボールを回し3秒以内に次の人に回す。

これが戦いのセオリーであり、コーチの川村さんはなぜそこに蹴ったのか、またボールを持った後はどのようにすればいいのかを、細かく指導した。

川村さんは「上手く出来なかった選手を責めるようなことはしないというマナーは身についたように思います。たとえ失敗しても一生懸命やったことを周りの選手が認めてあげる選手づくり、チームづくりをしたい」と話した。サッカーを楽しみながら強くなり、女性として成長してもらいたいスクールの願いがそこにあった。

練習の合間、この6月に十文字学園女子大学副学長から十文字中・高の校長に就任した橋本ヒロ子先生もグラウンドに顔を見せた。「きびきびした中高生の練習を真横で見ながら隣で練習しているスクールの小学生は『自分もあのようになりたい』と志し、練習にやる気が生まれます。それによってチームに一体感が生まれ、礼儀やコミュニケーション能力も身につくでしょう」と、女子サッカーを通した小学生・中学生・高校生・大学生の一貫した人間教育の将来に期待を寄せた。

（山口彩奈、杉田恵里記者）

山口、杉田記者の取材を受ける橋本校長（右）

大学サッカー部［新座］

十文字中・高サッカー部［巣鴨］

大塚十文字スクールの小学生［巣鴨］

新座キャンパスでの小学生サッカースクール開講

一般社団法人十文字スポーツクラブは、地域に根付いたスポーツクラブの運営を行い、スポーツを通して少年少女及び青少年の健全な育成や地域住民の皆様の健康の増進に貢献することを目的として活動しています。

その十文字スポーツクラブが、新規事業としてジュニアサッカーアカデミー（毎週月曜日の17:30－19:00）を女子の選手を対象に開講いたしました。十文字サッカー部アカデミーマスターの柴山桂（B級ライセンス）が、楽しくサッカーを教えスポーツ活動を通して子ども達の健全な成長の手助けを行っています。現在のクラブ員は13名。和光ベレーザなどの地元チームに所属しながら、それぞれスキルアップを図りつつ『個の成長』をめざして現在練習に励んでいます。

魅力ある女子の選手を育成すること、基本技術や個人戦術の習得を目指し、さらには普段は男子のチームに属しているが、女子のチームの中でプレーしたい選手や、中学校への進学後でも女子サッカーを継続していき、将来プロサッカーのトップ選手を目指したい選手たちが魅力を感じるアカデミーにしていこうと考え、活動しています。

（十文字スポーツクラブより）

大学サッカー部 3部リーグ4戦全勝で首位（関東女子）

十文字学園女子大学サッカー部に本年度より、十文字高校サッカー部を全国レベルに育て上げた石山隆之監督が就任した。新たな風にエンジン全開で練習を重ねるサッカー部に話を聞いた。

石山監督の就任後について関谷衣未部長（児童教育学科3年）と藤井沙耶キャプテン（食物栄養学科3年）は、「練習への意気込みが変わった。和気あいあいとした雰囲気はそのままに、さらに上を目指すようになった」と語る。サッカー部は「やらされるのではなく、自らがやる」をモットーに主体性を大事にしており、ミーティングは学生だけで行っているという。

目標は2020年までに『大学日本一』になること。そのために今は目の前の関東大学女子サッカーリーグ2部昇格へ向けて、新監督・新コーチのもと意識の高い練習に励んでいる。

2013年9月末現在、十文字学園女子大学は、3部リーグ4戦全勝＆無失点で首位。上位2チームが2部リーグ昇格のチャンスがある。

（熊﨑詩央里、沖田有似記者）

「2013 JUMONJI CUP」開催！

戸木南ボンバーズFCが2連覇

将来のなでしこたちが、縦横無尽に走り、ボールを蹴り、仲間に声をかける——。
今年も女子小学生たちによる数々の熱いプレーに沸いた「JUMONJI　CUP」。
今後の日本女子サッカーをリードするプレーヤーが、きっとここから誕生することでしょう。

熱戦の中で輝く次代のなでしこ候補生たち

平成12年より、将来の「なでしこ」リーグを担う選手育成を後押ししてきた十文字学園。今年で第14回目となる十文字学園杯女子ジュニアサッカー招待大会「2013 JUMONJI CUP」（主催：十文字学園／十文字スポーツクラブ）が、8月3日（土）・4日（日）の両日、新座キャンパスグラウンドで開催された。

開会式には、女子サッカーの健全な普及発展への寄与を目的とする大会趣旨に賛同し、豊田真由子衆院議員、須田健治新座市長、金子廣志同市教育委員会教育長ら多くの来賓が出席。初参加の新潟のチームを含め関東近県から「十文字カップ」をめざして集まった、女子小学生で構成される12チームの選手たちを激励した。

夏の日差しの下、天然芝のグラウンド狭しと繰り広げられた熱戦は、3日の予選リーグ、4日の順位別決勝トーナメントとも順調に進み、決勝に残った戸木南ボンバーズFC（埼玉）が青梅新町フットボールクラブ（東京）を4－1で下して、昨年の大会に続き2連覇を達成した。戸木南の優勝は通算3度目。

例年同様、大会運営は90名の十文字中学・高等学校サッカー部員が務めたが、今回からは大学サッカー部もサポートに加わり、中学・高校・大学が一体となっての運営がスタートした記念すべき年ともなった。

この2日間の模様は、テレビ埼玉、埼玉新聞が番組や記事に取り上げるなど、地元メディアも注目するスポーツイベントとして定着しつつある。また今年は新座市のゆるキャラ「ゾウキリン」も登場し、大会に彩りを添えた。

（取材・文：山口彩奈記者）

大人気の新座市のゆるキャラ「ゾウキリン」。熱戦の合間に選手や来場者が取り囲み、「可愛い」を連発していた

豊田真由子衆院議員、須田健治新座市長、金子廣志同市教育委員会教育長ら多くの来賓が開会式に出席

表彰式では、十文字一夫理事長が12チームの健闘を称え、優勝した戸木南の選手に十文字カップを授与

会場設営・受付・アナウンスからライン審判にいたるまで、十文字中学・高等学校サッカー部員が中心となって、大会を運営

大会結果・上位3チーム
1. 戸木南ボンバーズFC
2. 青梅新町フットボールクラブ
3. 千葉フェニックス

その他の出場チーム
・市川フットボールクラブレディース・グランセナ新潟フットボールクラブガールズ・北区さくらガールズ・SC和光ベレーザ・川越女子ジュニアサッカークラブ・東大宮エンジェルス・綾南フットボールクラブガールズ・東加平キッカーズ女子・高島平サッカークラブ

十文字学園杯小学生バレーボール大会
SUGURO（坂戸）がV

埼玉県内から3チーム、東京都内から9チーム計12チームが参加。日ごろの練習の成果を存分に発揮した

8月4日、第8回十文字学園杯小学生バレーボール交流大会（十文字スポーツクラブ主催）を大学体育館にて開催。SUGUROスポーツ少年団（坂戸市）が大井クッキーズスポーツ少年団（ふじみ野市）を21－19、21－11で下し、栄冠を手にした。

優勝したSUGUROは、力強い攻撃と堅い守りを武器に、予選リーグ、順位決定戦ともに全勝。全試合1セットも失わない完全優勝という快挙を成し遂げた。大会運営に当たったのは、十文字中学・高等学校バレー部員28名。運営責任者の関根悠さん（高2）は、「緊張したが、しっかり務めることができたと思う。昨年より強くなった小学生チームに感動しました」と無事ホスト役を終えた充実感を味わっていた。

大会結果・上位4チーム
1. SUGUROスポーツ少年団
2. 大井クッキーズスポーツ少年団
3. 池袋ジュニアバレーボールクラブ（豊島区）
同・板三（板橋区）

その他の出場チーム
・朝霞ジュニアバレーボールクラブ（朝霞市）・新宿柏木スポーツ少年団（新宿区）・ミラクルFVC（府中市）・狛江セブン（狛江市）・中島根ジュニア（足立区）・鶴川ウイングス（町田市）・みたかオレンジウェーブ（三鷹市）・鹿骨ジュニアバレーボールクラブ（江戸川区）

特報 4

就職支援2013

若者の就職難が社会問題となる中、毎年、高い就職率を誇る本学では学生の健闘を支える多彩なサポートを展開しています

夏季インターンシップ報告

今年のインターンシップに参加した71名の学生から3名の体験記を紹介します。

number 01

受け入れ先

東急アド・コミュニケーションズ

人間生活学部
生活情報学科
3年　小林 優美

産みの苦しみと達成感

私は交通広告を主な媒体として取り扱う、株式会社東急アド・コミュニケーションズで10日間のインターンシップに参加した。

基礎知識の座学からはじまりメディア見学、営業実践、グループワークを通じコヤマドライビングスクールから提示された課題のプレゼンを行うという極めて実践的な実習プログラムである。

前半3日間の座学で広告業界について基礎知識を養い、その後メディア見学を通じ座学で学んだことをより深めることで広告に対するプロの熱い情熱を感じ非常に心を打たれた。

最終課題であるコヤマドライビングスクールでプレゼンを行うための準備では、クライアントが求める成果物を仕上げるためアイデアを出す際「産みの苦しみ」というものを痛感したが、同時に仲間と話し合いアイデアを積極的に出す大切さを知ることができた。残念ながら提示したプレゼン内容は最優秀賞に選ばれなかったが、グループで真剣に話し合い作り上げたプレゼンを発表した瞬間、何物にも代え難い達成感が心の中に広がった。

インターンシップを通じ私が学んだことは、目標に対し諦めず仲間と何かを達成する事の素晴らしさ、誰かの為に尽力する事への喜びである。今回学び感じたことを就職活動、そしてこれからの私の成長のために生かしていきたい。

number 02

受け入れ先

リコージャパン

人間生活学部
メディアコミュニケーション学科
3年　衣笠 明莉

5日間の経験が一生の宝物に

私は、株式会社リコージャパンで、5日間のインターンシップを行った。主な実習内容は、グループワークを中心とした模擬営業や2日間の営業同行だった。以前から営業志望だったわけではなく、マーケットインの今、買い手と売り手の距離の近さが徐々に重要になってきていると考えていた。そんななか、「販売」と「営業」の違いを、言葉ではなく、自らの目で見て体験したいと思い、実習内容に営業同行を含んでいるリコージャパンでインターンシップに参加することを決意した。

2日間、4名の営業を目にしたが、四人四色の営業スタイルで、正解や完成はないことを実感した。また、以前までの私の「営業」のイメージは、「一方的なセールス」だったが、4名の営業は共通して「相談するセールス」であり、リコージャパンがビジョンとして掲げている「価値共創」の意味を感じた。営業担当の方がおっしゃっていた「最高の営業マンは、お客様にとって最高の相談相手になること」という言葉が印象に残っており、「営業」のイメージがポジティブに変化した。お客様と継続的な価値共創パートナーを目指すことが「営業」であり、そこに「販売」との違いがあることを学んだ。

この5日間の経験は、私にとっての宝物になった。就職活動だけでなく、社会人になっても、参考にしていきたい。

今回のインターンシップでは自分の意見を求められることが多く、自ら考え、自らの言葉でしっかり発信する必要性を強く感じた。

また漠然と、「JAXA＝理系・男性の人が多い」というイメージを抱いていたが、実際は、女性や文系の方も多く働いていた。同じ女性がJAXAで活躍しているところを見て心強く感じたし、大いに刺激を受けた。

宇宙開発事業というと、一般には縁遠いものと思われがちだが、今回の体験を通じ、JAXAが私たちの暮らしに身近な活動を数多く行っていることがわかった。また「働く」ことの楽しさ、大変さを知ることもできた。今後の大学生活や就職活動はもちろん、就職後にも今回の経験を生かしたい。

number 03

受け入れ先

宇宙航空研究開発機構

人間生活学部
人間発達心理学科
3年　島﨑 美祐

主体性の大切さを痛感した10日間

幼い頃から宇宙への憧れがあったため、宇宙に関する仕事が知りたいと思い、独立行政法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）で、10日間のインターンシップに参加した。JAXAは、日本における宇宙航空分野の基礎研究から開発・利用にいたるまで一貫して行っている機関だ。

研修プログラムでは、2つのミッションを任された。ひとつは、JAXAで研究指導を受けている理工系大学院生へのインタビューおよびホームページ用記事の執筆。そして、もうひとつは、宇宙航空関連分野を学ぶことのできる大学のデータベース作成に携わった。

学生一人ひとりが本学の代表者

就職支援部長　本間 修

今夏も長期・短期のインターンシップあわせて71名の学生が参加しました。学生からの終了報告では、晴々した笑顔や安堵の顔、苦い表情など様々です。インターンシップは大学では伝えきれないさまざまなコンテンツが詰まっており、参加した学生にとっては楽しさ・辛さの両面から、いままでにない新鮮で貴重な体験を重ねてきたと思います。

その体験は間違いなく学生の成長にとっての糧となっているはずです。就職して働くことになれば、どちらかというと辛いことのほうが多いでしょう。就職でのミスマッチによる離職率増加も社会問題化しています。しかし、インターンシップに参加した学生は、社会で働く実態を垣間見てきた分、現実と自分自身を直視した見方で前向きな就職活動に取り組んでくれるものと期待しています。

担当の声

保護者向け就職セミナー

今年も500名を超える保護者がセミナーに参加

5月18日（土）、本学記念ホールにて「保護者向け就職セミナー」が開催された。本セミナーは平成22年から開催され、既に4回を数えるが、本年も昨年に引き続き500名を超える保護者が参加した。本年は採用育成・人材コンサルタントの小島貴子氏を講師として招き、「親が伸ばす子どもの就活力」をテーマに講演を聴いた。

小島氏は昨今の厳しい就活事情の説明とあわせて、子どもへの接し方、サポート方法などについてアドバイスした。講演後は、場所を移して「学科別説明会」が開催され、学科ごとに実情に即した就職活動の説明と、教員と保護者の間での質疑応答が交わされた。

夏季インターンシップ受け入れ先

- アイ・ティ・シーネットワーク
- アズ企画設計
- 荒川区役所
- イマジンプラス
- ウィズダムアカデミー
- 独立行政法人宇宙航空研究開発機構
- NHK出版
- エムエスデー
- 大江戸温泉物語
- 大川水産
- オンワード樫山
- カネパッケージ
- 鴻巣市役所
- 興文堂
- 埼玉県庁
- 埼玉新聞社
- 埼玉マシン
- ザ・ライトスタッフオフィス
- 燦クリーン
- サンコーインダストリー
- ジェイコムさいたま
- 生活協同組合コープみらい
- 西武ホールディングス（プリンスホテル）
- 蓼科情報
- 玉屋
- 東急アド・コミュニケーションズ
- 東京ガス　埼玉支社
- 東和エンジニアリング
- トップシーン
- 新座観光トラベル
- 新座市役所
- 日新航空サービス
- 日本デイケアセンター
- 野口精機
- ハウスメイトグループ
- 富士ゼロックス埼玉
- フジミック埼玉
- ブランドゥシー
- ベルク
- 医療法人社団寛眞会マミ歯科
- むさし証券
- リコージャパン
- りそな銀行
- ルネサスイーストン
- 和光市役所

（五十音順）

教えてネ！キャンパスのいい話

大学の最新情報をお届けする学生編集局は新たに８名の学生を加え、総勢 20 名となりました。今年度も精力的に活動して、旬な情報をご紹介します。

また、「25 年度後期に頑張っていること」にもご注目を。

４年生

大嶋 理恵
解説委員長

社会情報学部
コミュニケーション学科

後期に頑張っていること

卒業研究とフリーペーパー『ナチュライフ十文字』の編集。

岸 真裕美
解説副委員長

社会情報学部
コミュニケーション学科

後期に頑張っていること

卒業論文、頑張ります。

赤尾 香澄
解説委員

社会情報学部
コミュニケーション学科

後期に頑張っていること

珈琲店でのアルバイトです。旅費を貯めています。

天羽 洋子
解説委員

社会情報学部
コミュニケーション学科

後期に頑張っていること

最後の学生生活を、悔いの残らないように過ごすこと。

上柿 茜
解説委員

社会情報学部
コミュニケーション学科

後期に頑張っていること

内定先企業での研修を頑張っています。

河合 咲絵
解説委員

人間生活学部
児童幼児教育学科
児童教育専攻

後期に頑張っていること

小学校教員採用試験に向けて、大学で毎日勉強しています！

川島 桃子
解説委員

社会情報学部
コミュニケーション学科

後期に頑張っていること

卒業論文の作成と趣味で続けているキックボクシング。

久家 未有紀
解説委員

人間生活学部
児童幼児教育学科
児童教育専攻

後期に頑張っていること

幼稚園教諭をめざし、ピアノの特訓中です。

三浦 秀佳
解説委員

社会情報学部
コミュニケーション学科

後期に頑張っていること

学生として最後の残り半期、楽しみ尽くすこと。

３年生

高根 利佳
編集長

人間生活学部
メディアコミュニケーション学科

後期に頑張っていること

47 都道府県すべて旅してきたので、次はまとめを作ります！

衣笠 明莉
総合デスク
副編集長

人間生活学部
メディアコミュニケーション学科

後期に頑張っていること

就職活動に向けて、勉強や社会人スキルを身に着けています。

江田 茉莉
副編集長

人間生活学部
メディアコミュニケーション学科

後期に頑張っていること

結果として見える努力をしつつ、美白を極めます。

黒田 美沙子
副編集長

人間生活学部
メディアコミュニケーション学科

後期に頑張っていること

さまざまな経験や学習を通して、ぶれている軸を定められるようにしたい。

荻原 有莉
副編集長

人間生活学部
メディアコミュニケーション学科

後期に頑張っていること

空いている時間を見つけて資格の勉強に取り組んでいきたいです。

春田 早穂
副編集長

人間生活学部
メディアコミュニケーション学科

後期に頑張っていること

大学内での授業や活動はもちろん、大学以外でもたくさんのことにチャレンジしていきたいです。

吉田 未希
副編集長

人間生活学部
メディアコミュニケーション学科

後期に頑張っていること

今まで自分がしたことのない経験をすること。

リュウ ソウバイ
副編集長

人間生活学部
メディアコミュニケーション学科

後期に頑張っていること

就職活動と授業とアルバイトの３つのバランスを大切にしています。

私たちがお届けします

２年生

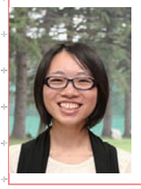
髙塚 愛実
記者

人間生活学部
メディアコミュニケーション学科

後期に頑張っていること

朗読会に向けて、発声練習に力を入れています。

深田 安莉
記者



人間生活学部
メディアコミュニケーション学科

後期に頑張っていること

やりたい事もやらなきゃいけない事も全力勝負。

福島 茉莉
記者

人間生活学部
人間福祉学科

後期に頑張っていること

福祉分野の専門技術習得と勉強に励んでいます。

留学生と日本人学生がコラボレーション
女子大生ならではのセンスで２つのゼミから発信

『国際目線で綴るWEBマガジン』発行

詳しくは▶http://www.jumonji-u.ac.jp/ext/sogo0

忍城内で当時の武将の衣装を着た案内役の人とともに

7月31日、国際目線で綴るWEBマガジン『Colorful 首都圏！十文字学園女子大発』創刊号が本学ホームページにアップされました。これからも魅力ある記事を掲載していく予定です。

創刊号は、本学の共通科目「十文字学総合ゼミD」、メディアコミュニケーション学科「日本文化理解を深める四季ニュース研究ゼミ」が合同制作。「埼玉県北部取材旅行（忍城、北条まつり、行田の足袋）」や、新座キャンパスの「十文字学園は花見の名所」「アジサイの花は梅雨に似合うね」のほか、「学友会の招きに感謝・『七夕』が結ぶ国際交流」など、取材した学生の印象が文章に込められています。WEBマガジンは、ITを活用した留学生と日本人学生の相互文化理解、日本語の文章力向上はもちろん、海外在住の留学生の保護者らにも即届くメリットも。ぜひ今後の展開にご期待ください。

学業・課外活動の成績優秀者 51 名を表彰

平成 25 年度学業成績優秀者一覧

		2 年	3 年	4 年
人間生活学部	人間生活学科	生活情報学科	高橋 樹里	真行寺 芹菜	社会情報学科	今嶋 ゆい
			山田 梓沙	中村 有沙		坂間 淳美
		メディアコミュニケーション学科	田中 桃花	石川 真希	コミュニケーション学科	佐々木 茜
			水野 智世	高野 桃子		中川 優
		幼児教育学科	池田 里香子	川満 花能	人間生活学部 人間生活学科	児童幼児教育学科 幼児教育専攻	大澤 悠紀子
			鈴木 梨紗	長谷川 由佳			仲里 美香
		児童教育学科	川瀬 亜美	金子 咲穂		児童幼児教育学科 児童教育専攻	末久 真由
			木本 理恵子	細田 祥代			渡邊 梨奈
		食物栄養学科	菊池 宏子	伊東 沙樹		食物栄養学科	倉若 美咲樹
			佐野 由季	村崎 里奈			波多野 郁美
		人間福祉学科	大野 珠美	太田 莉奈		人間福祉学科	鈴木 七彩
			西牟田 美紅	関根 萌			栗原 三奈子
		人間発達心理学科	池田 彩華	塚野 美貴		人間発達心理学科	内田 志穂実
			島崎 裕子	仲江 由弥華			小島 宏美
	短期大学部	表現文化学科	大室 薫				
			徳岡 李音				

平成 25 年度課外活動等に関する表彰

学部	学科・専攻	受賞者名	推薦事由
人間生活学部	児童幼児教育学科 児童教育専攻 4 年	武藤 彩花	第 62 回日本書道院展において【全日本書道連盟賞】を受賞
	児童教育学科 2 年	堀江 悠加里	2013 年埼玉県少林寺拳法大会一般女子級拳士 組演武において【1位 最優秀賞】を受賞
	生活情報学科 2 年	小久保 有彩	
	幼児教育学科 3 年	相川 美希	2012 年埼玉県少林寺拳法大会一般女子級拳士 組演武において【2位 優秀賞】を受賞
		平山 千絵	
	人間発達心理学科 3 年	菊池 栞	2012 年埼玉県少林寺拳法大会一般女子級拳士 組演武において【3位 優良賞】を受賞
	人間福祉学科 3 年	塚田 妃奈子	

中山間「ふるさと支援隊」活動報告会に出席

4 年にわたる中山間集落の共助活動を生き生きと語る

限界集落など過疎化や高齢化が進む埼玉県内の中山間集落の活性化を目的に、埼玉県が県内の大学や学生の力を借りながら地域の共助に取り組む「中山間ふるさと支援隊」の活動報告会が 9 月 9 日、さいたま市浦和区の知事公館で開かれ、3 大学 4 支援隊が参加した。

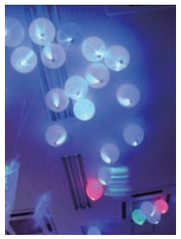
本学から秩父市太田部集落で活動する支援隊（指導教員／人間福祉学科・新井幸恵教授）と小川町腰上地区で活動する支援隊（同／児童教育学科・狩野浩二教授）の学生計 5 名が報告に立ち、岩崎康夫副知事や高山次郎農林部長らを前に平成 22 年度から 4 年間にわたった活動の様子を生き生きと語った。

同事業には県内にキャンパスがある 10 大学から学生ら 282 名が活動に加わり、13 地区で活動してきた。本学からは神川町矢納地区で活動する支援隊（ゾウキリンくらぶ）を含め唯一複数の支援隊が参加。それぞれ「農山村文化の伝承」や「地域の魅力再発見」などのテーマを掲げ、地区に通い、交流を深める中で専門領域を超えた貴重な経験を積んだ。

太田部地区に通った田口亜樹さん（人間福祉学科 4 年）は、地区で途絶えていた「花輪踊り」の復活にかかわった体験をもとにしながら「地区の人たちに喜んでもらえた充実感、達成感でいっぱい。卒業後もどう関われるかを考えていきたい」と話していた。

表現文化学科が七タイベントを実施

幻想的な空間で七夕を演出 多様なアプローチで七夕を表現



昨年に続き、短期大学部表現文化学科の七夕イベントが 7 月 5 日、開催された。一般社団法人キモノプロジェクトの協力もあり、学生たちは浴衣姿でこのイベントに参加した。

会場の 613 教室では、夜空を模した暗闇をブラックライトで照らし、LED ライトを仕込んだ風船や、光る文字の短冊をたくさん散りばめるように吊るして、天の川を演出。またトニックウォーターにジュースを混ぜた「光るドリンク」も作った。当日は附属幼稚園生も招待し、楽しいひと時を過ごした。

今年度は七タウィークと称した期間中、多くの授業で七夕をテーマにした授業を展開した。年中行事としての七夕、古典文学作品・浮世絵に描かれた七夕を学び、七夕をモチーフにエッセイや英語劇の台本を書いたりもした。

教員と学生で七夕を表現するこのイベントを、中心となって進めたシーラ・クリフ教授は、「みんなが楽しんでくれてうれしい」と語った。（深田安莉記者）

表現文化大賞「優秀賞・準優秀賞」表彰

自由な発想で個性あふれる 7 作品が受賞

7 月 24 日（水）、第 3 回「表現文化大賞」表彰式が、本学学長室で行われた。今年度のテーマは「未来」。詩・和歌・俳句・イラスト・書・写真の様々な分野で、「未来」を表現した作品が集まった。在学生や卒業生および全国の高校生から総計 112 点の作品が寄せられ、厳正なる審査の結果、優秀賞に 3 点、準優秀賞に 4 点が入賞した。受賞者は下の通り。

表現文化学科マスコットの名称が学内公募で「ハーピーちゃん」に決定しました!!

優秀賞

イラスト	小畑 夏実	熊谷西高校 2 年
書	百瀬 裕美	メディアコミュニケーション学科 1 年
	坂田 真子	表現文化学科 2 年

準優秀賞

イラスト	崎山 希和	表現文化学科 1 年
	飯塚 由香里	表現文化学科 2 年
書	笠木 理沙	表現文化学科 1 年
	山口 恵里奈	幼児教育学科 1 年

「にっぽん秋の大収穫祭」に本学食物栄養学科から料理レシピを提供

米粉を堪能できるパンメニューを提案

米粉イベント実行委員会の主催により、9 月 14 日～9 月 23 日、新宿大久保公園にて開催された「にっぽん秋の大収穫祭 新宿ビアスタジオ ～ふっくらももちも新食感米粉の魅力を再発見～」に、OL をターゲットにした料理レシピを提供した。

フランスパン、クロワッサン、セサミパンなどの米粉パンを利用した 10 種類の揚げパンを試作し、試食会を実施。その中から 3 種類が販売され、好評を博した。

イベント開催期間中は学生の参加はなかったが、事前の調理指導を行った。

MENU

①相性抜群！キムチ揚げパン
②イタリアン揚げパン（生バジルとチーズの揚げパン）
③りんごとレモンの爽やか揚げパン

平成 25 年度特待生を表彰

学力、スポーツ・文化芸術に優れた 5 名を選出

特待生は、入学時において特に優れた学力や運動・芸術方面の能力がある者を、申請にもとづいて表彰するもので、平成 25 年度の特待生として 4 月 23 日（火）に横須賀学長より次の 5 名の学生が表彰された。

学業成績による特待生

岡本 栞
人間生活学部 児童教育学科 1 年

スポーツによる特待生

伊藤 千晶
人間生活学部 幼児教育学科 1 年

森下 愛美
人間生活学部 幼児教育学科 1 年

崎山 希和
短期大学部 表現文化学科 1 年

文化芸術による特待生

百瀬 裕美
人間生活学部
メディアコミュニケーション学科 1 年

「七夕」が結ぶ国際交流で華やぐ

留学生と日本人学生が七タクイズやゲームを楽しむ

7 月 5 日、本学カフェテリアで学友会主催の七タティーパーティーが行われた。集まったのは留学生 24 名を含む約 60 名。日本・中国・カナダの学生が一堂に会し、前田尚美学友会代表委員会企画局長、大西正行国際交流センター長の挨拶の後、七夕に関するクイズやゲームで交流。フリータイムはお茶とお菓子を楽しみながら歓談した。

中国の行事であった七夕は、奈良時代に日本に伝わり、日本古来の行事と習合したものと考えられている。クイズや歓談を通して、こうした七夕にまつわる歴史、日中における違いなどへの理解を深めた。

「グループみんなで団結してクイズをやったのが楽しかった」「ビンゴゲームで賞品が当たりうれしかった」「日本人学生と留学生がくおしゃべりし、友だちもできた」など、参加者は満足した様子。

浴衣姿の学生を見た留学生からは、「次はぜひ自分も浴衣を着て参加したい」と、早くも来年の開催を期待する声が上がっていた。

メディアコミュニケーション学科 CM が完成

企画立案・撮影・編集まで 15 名の学生の手でやり遂げる

7 月 9 日に完成したメディアコミュニケーション学科 CM は、自分たちの学科のワクワク感を映像で表現してみたいというメディアコミュニケーション学科 3 年の椛島あかりさんをリーダーとしたメディコミ CM 制作プロジェクトの 15 名のメンバーを中心に制作された。このプロジェクトがスタートしたのは 6 月 22 日、ほぼ 2 週間というタイトなスケジュールの中で企画・立案・撮影・編集までやってのけたのだ。

CM 監督小暮隆生氏と音楽プロデューサー吉岡聖治氏のレクチャーから始まるワークショップで CM 企画を立て、本番さながらのプレゼンで選ばれた企画をみんなでブラッシュアップ。コンセプト、コピー、絵コンテ、そしてキャスティングまで集中して進めた。

圧巻だったのはメディアコミュニケーション学科 1 年生全員出演のバルーンリリース。自分たちの夢を書いたバルーン 200 個を一気に空に放つシーンの撮影だった。CM 完成試写会では夢に胸を膨らませながらきらきらとした 1 年生たちの笑顔が満ち溢れていた。【URL http://youtu.be/XZU42q0ZGMA】

本学大学院に初の男子学生
カンボジアからコン・リィさんらが入学

東南アジア青年の船で食育部門のリーダーとして活躍

今年4月に大学院人間生活学研究科食物栄養学専攻に入学したカンボジア出身のコン・リィさんは、本学初の男子学生2名のうちのひとり。コン・リィさんは、日本への留学経験や栄養士の資格、FAO（国際連合食糧農業機構）カンボジア事務所職員の経験も有し、平成24年度には、東南アジア青年の船にカンボジア代表として参加した。

東南アジア青年の船は、昭和49年度に開始されたASEAN各国と日本との共同事業。東南アジア諸国と日本の青年が、船内で40日余り生活を共にする中で、各国事情の紹介や討論を行うとともに、船内および訪問国での各種交流活動により、相互の友好と理解を促進し、社会の各分野のリーダーを育成することを目的としている。

コン・リィさんが参加した第39回事業では、日本を含む11か国の青年300余名が、東南アジア5か国を訪問。また船内においては「青年の社会参加」を共通テーマに、「企業の社会貢献」、「異文化理解促進」、「環境（気候変動）」、「食育」など8分野について、英語によるディスカッションを実施し、各分野に対する理解を深めた。この時、食育部門のリーダーとして活躍したのがコン・リィさんだ。

カンボジアでは食糧事情が悪く、低栄養や、またそれがもとで伝染病にかかりやすくなって命を失う乳幼児が少なくない。そこで、コン・リィさんはこれまでの経験を生かし、入手しやすいけれども、従来はあまり利用されてこなかったカンボジアの農村の食材を離乳食に活用するための研究に取り組み始めている。

お互いを大切にする関係を学ぶ

デートDV講座

共催：埼玉県男女共同参画課

結婚していない恋人同士間で起きるDV（ドメスティック・バイオレンス）のことを「デートDV」という。女子高校生／大学生の被害者は5名中1名（アウェア2007年調査）。自分自身だけでなく友達や家族が経験するかもしれない問題だ。

授業「女性を学ぶ」では7月1日、NPO法人レジリエンスの西山さつき氏によるデートDV講座が行われた。殴る蹴る、暴言、貸したお金を返さない、携帯のメールチェックや避妊しない等の暴力についての解説や、「普通好きなら、デートを優先させるのが常識だろ！」という交際相手とのロールプレイ、束縛され、尊重のない関係を「愛」と捉えてしまう状況について説明があった。

「ひとごととは思わずに、自分も体験するかもしれないと思うことが大切だと思った。もし、身近な人が悩んでいたら助けてあげたい」と真剣に考えさせられた貴重な講座だった。

国際セミナーを女性人権機構と共催

国連安保決議1325実施に関するセミナーを開催

8月27、28日の2日間、本学教授会議室において国際セミナーを開催した。テーマは「国連安保理決議1325実施のための各国国内行動計画のモニターと評価」で、女性人権機構と共催した。

報告者は、ニューヨークで女性と平和構築のための活動をしているNGOの国際コーディネーター、オーストラリア市民軍隊センター人道マネージャー、フィリピンのミリアム女子大学平和教育センター事務局長、在日イギリス大使館政務官、前内閣府PKO担当ジェンダー顧問で、安保理決議1325など女性と平和や国防とジェンダーなどの研究者ら総勢18名が参加した。

外務省総合外交政策局で安保理決議1325および関連決議を実施するための国別行動計画の策定担当者は、8月20日の人事異動のため不参加となった。学長の代理として志村二三夫副学長に歓迎の挨拶をいただいて開会し、最終日には「国連安保理決議1325実施のための各国国内行動計画のモニターと評価のための原則と勧告」に合意した。前文については、最終日にホテルで夜を徹して作り上げた。

3年計画による科研費調査の一環であるが、来年はフィリピンで2011年に策定された同国国内行動計画がどのような成果をもたらしたかについて聞き取り調査を中心に行う。

教授／十文字中学・高等学校 校長 橋本ヒロ子 記

平成25年度「夢の卵」育成事業を実施

富山県の小6生大野芙瑠琉（ふるる）さんが「ミニ介護講座」などを体験

富山県ひとづくり財団が実施する、「夢の卵」育成事業の一環として、同県高岡市立戸出西部小学校6年大野芙瑠琉さんが8月20日、本学に来校。人間福祉学科による「ミニ介護講座」などを受講した。この事業は、富山県内の子どもから夢を書いた作文を募集し、その夢の実現を応援するというもの。今年は1600通を超える応募の中から「みんなを笑顔にできる介護福祉士になりたい」という大野さんの夢が選ばれ、その第一歩となる場所として、本学に協力要請があり、受け入れが実現した。

大野さんは、まず横須賀薫学長、栗原直樹学科長らに挨拶。介護福祉士という夢を持った理由を問われ、「祖父が介護施設に入ったことがきっかけ」と、元気よく答えた。

その後、野島靖子准教授から福祉に関する説明を受けたほか、「福祉を学んでいる中で今まで大変だったこと、うれしかったこと」などを野島ゼミの田波芳恵さん、平田和さんに質問。福祉を学ぶ学生の声に耳を傾けていた。その後、NPO法人「暮らしネット・えん」に出向いて、グループホームの利用者と歌を唄うなどの活動に参加。利用者とテーブルを囲み昼食を共にした。

午後からは本学の介護実習室で「ミニ介護講座」を受講。嚥下困難者のための飲み物介助や電動車いすの操作、機械浴槽の操作方法などの講義と実践を学んだ。プログラムを終えた大野さんは「たくさん学べてよかった」と、うれしそうに話していた。

志木・朝霞・清瀬市教育委員会　地域連携協定すすむ

志木市との連携協力で調印

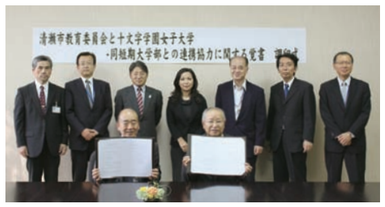
8月1日、十文字学園女子大学は、埼玉県志木市との間で「連携協力に関する協定」を締結した。この協定は、それぞれが有する人材や施設などの資源を有効に活用し、交流を深めることで、地域福祉・文化などの分野を発展させることが目的。協定には、社会福祉、教育・文化・スポーツ、環境、防災、地域コミュニティーなど9分野にわたる項目が掲げられ、両者が有機的な連携を図りながらそれぞれの課題解決に取り組んでいくことが定められている。

横須賀薫学長は「今回の調印で新座、和光、朝霞各市を加えた近隣4市との協定が整った。地域全体で共通する課題の解決や連携深化を進められれば」と決意を述べた。香川武文市長も「これまでも教育行政の面で協力をいただいてきたが、より総合的な連携ができ心強い限り。互いにプラスになるよう生かしたい」と語り、さらに「高齢化社会への対応が急務。福祉専攻の学生さんはぜひ市職員採用試験に挑戦を」と本学学生への期待感をにじませた。

朝霞市との相互協力協定で調印

6月28日、十文字学園女子大学・同短期大学部は、埼玉県朝霞市との相互協力協定調印式を朝霞市役所で行った。

調印後、横須賀学長は、「教育面だけでなく、総合的な協定が結ばれたことはうれしい。地域との関係を大事にし、大学の立場で貢献できるよう心掛けたい」と挨拶した。これに対し、富岡勝則朝霞市長は、「行政の目線だけではなかなか解決できないこともある。学生の新鮮な目線を施策に生かして、暮らしやすいまちづくりを目指していきたい」と連携に期待を込めた。



清瀬市教育委員会との連携協力で調印

6月4日、十文字学園女子大学・同短期大学部は、東京都清瀬市教育委員会（東田勢教育長）との「連携協力に関する覚書」の調印式を執り行った。今回の調印式は、本学と清瀬市教育委員会が相互に連携協力し、教育上の諸課題に対応し、その成果を活かして双方の教育上の充実、発展に寄与することを目的に締結されたものである。

調印式で東田教育長は「大学の力を活用させていただき、市内の学校の底力を高められるよう、互いに成果が出せるようにしたい」、横須賀学長からは「中規模の大学だが、学生には元気がある。ぜひ現場で鍛えていただきたい。まずは教育分野での協力を進め、今後も地域との連携事業に積極的に取り組みたい」と意欲を表明した。

新座市教委の3年次教員研修を開催

3年目教員の学びの場 グループワークなどの試みも

7月26日、29日の2日にわたり、本学で新座市教育委員会の「新座市3年経験者教員研修会」が実施された。この研修会は新座市内の小・中学校教員で3年目を迎えた若手教員を対象とするもので、今年で6年目の実施となった。

本年度は29名が参加した。講師を務めたのは、新座市教育長の金子廣志氏、本学の横須賀薫学長、児童教育学科等の教授陣。今回は今年度オープンさせたばかりのアクティブラーニング学習室でのグループワークもあり、パソコンを利用して発表を行うなど新しい試みで行われた講義もあった。初日の研修会後には、懇談会が開催され、研修生と新座市教育委員会、本学の関係者の情報交換等を兼ねた有意義な交流の場となった。

5回目の教員免許状更新講習を実施

近隣5市の勤務者と本学卒業生らが参加

今年も、8月1日から8日までの5日間、本学では5回目となる免許状更新講習を実施した。受講者は本学と連携している近隣の5市の勤務者や本学の卒業生を中心に280名で、延べ757名が参加した。うち、本学の卒業生は59名で、内訳は、短期大学部幼児教育学科32名、初等教育学科22名、その他の学科5名だった。

必修2日目は、「学校病理的現象の解明」をテーマとした基調講演の後、グループ討議を行った。受講生からは、「身近な校種間での討議は経験していたが幼～高までの先生方との討議は新鮮であり、それぞれが持つ課題が理解できた」「"人を育てていく"という観点から教員が"つながり"を意識し、教育活動を行っていくことが大切だと思った」などの感想が寄せられた。

赤井美智子氏に名誉教授称号記を授与

5月16日に本学理事長室において、名誉教授称号記授与式が執り行われた。

教授として長年勤務し、教育上または学術上特に功績のあった教員に授与される名誉教授の称号が、3月末をもって定年退職された幼児教育学科赤井美智子氏に贈られた。

当日は、赤井氏の功績を讃えるため、多数の幼児教育学科教員を中心に教職員が出席し、にぎやかな式典となった。

十文字学園女子大（名倉秀子食物栄養学科長）と女子栄養大（石田裕美教授）とのコラボレーションで学会を開催

第264回日本産業衛生学会関東地方会例会を、関東産業衛生技術部会および産業栄養研究会の共催で開催します。参加希望の卒業生および学生は、メールで田中茂（stanaka@jumonji-u.ac.jp）宛にご連絡ください。

開催日　平成26年2月8日（土）13時～17時

会場　十文字学園女子大学　9417教室

プログラム

●教育講演　13時～14時10分
座長▼名倉秀子（十文字学園女子大学）
「精神栄養学―精神疾患の新たな治療・予防法としての食事―」功刀浩（国立精神・神経医療センター神経研究所疾病研究第三部部長）

・休憩　14時10分～14時25分

●シンポジウム　14時25分～17時
テーマ：食生活から心の健康を支援する
座長▼石田裕美（女子栄養大学）
1. 食事と調理からのリワーク支援
個別指導及び集団プログラムの事例から　野口律奈（帝京平成大学）
2. 職場における食環境と勤労者の食生活　赤松利恵（お茶の水女子大学）
3. 職場給食に何が求められているか
佐藤愛香（西洋フード・コンパスグループ株式会社）

若桐会だより

■第45回「若桐会総会」開催のご報告

2013年6月2日（日）ザ・プリンスパークタワー東京にて第45回十文字学園同窓会 若桐会 総会・懇親会が行われました。

梅雨の影響で天気が心配される中158名の会員の皆さまにご参加いただきました。

本年も無事に終了しましたことをここにご報告いたします。

〔1部〕

総会では、濱口惠子会長、十文字一夫理事長、横須賀薫学長、青木康子委員長の挨拶に続き、昨年度の事業報告および会計報告、監査報告、本年度の事業案および予算案報告が厳粛に執り行われ、満場一致で可決採択いたしました。

〔2部〕

懇親会では、学園カラーであるピンク色のオリジナルカクテルで乾杯した後、豪華な料理、東京ディズニーリゾートチケットなどが当たる抽選会、そして仲間や恩師との再会に弾む歓談など、たくさんの笑顔や楽しそうな声から素敵なひとときをお過ごしいただけたことと思います。

また、同窓会創立40周年記念行事「還暦のお祝い」は、第6回目を迎え、ご招待しました3名の卒業生の方々からは在学当時のエピソード、近況報告、趣味、新座キャンパスだよりを楽しみにしてくださっていることなど、自由にお話しいただきました。いくつになってもさまざまな分野に興味関心を持ち感じたり学んだりし続ける姿勢に脱帽された会員の方も多いのではないでしょうか。

次回来年の総会・懇親会でも多くの会員の皆様にお会いできますことを心より楽しみにしています。

■若桐会事務局開設のお知らせ

2013年6月より、若桐会の管理／運営につきまして業務委託を行うこととなりました。多くの皆様のお力をいただきながら今後より一層活発な会にして参りたいと思います。

それに伴いまして、本学1号棟（A）2階に事務局を開設いたしました。今後の変更届（住所・氏名等）や同窓会に関するお問合せにつきましては、下記までご連絡ください。

連絡先が変わりました!!

住所・氏名等の変更は、本学同窓会「若桐会」事務局までご連絡ください

TEL：048（422）0394［若桐会事務局］
FAX：048（478）9367［大学直通］
E-mail：wakagi@jumonji-u.ac.jp

■ホームページリニューアルについて

2013年7月、本学ホームページ内における同窓会コンテンツにつきまして、リニューアルをいたしました。

今後も若桐会についての情報を更新してまいりますので、ぜひご覧ください。

financial report

学校法人十文字学園の財政状況

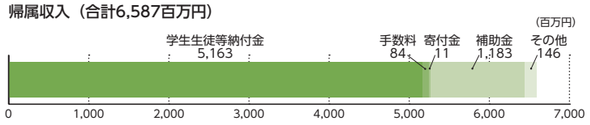
学校法人十文字学園の財政状況は平成24年度決算をもとに見ると、**収入の合計**は**6,587百万円**、**支出の合計**は**6,578百万円**となっています。

収入の大半は学生生徒の皆さまからの学生生徒等納付金（授業料等）と補助金（国から交付される補助金）です。一方、支出は本学園で学ぶ学生生徒の皆さまに対し、質の高い特色ある教育研究を実現するための教職員人件費、学校の施設設備の維持費（耐震工事の実施等）、教育研究に必要な機器備品や図書の購入等、教育研究環境の充実のための支出です。

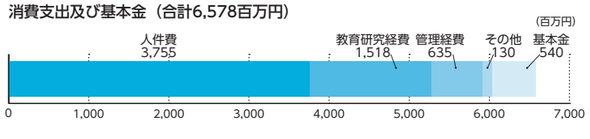
新座市にある大学・短大の建物の耐震工事は平成24年度にすべて完了いたしました。また巣鴨にある高校・中学も近代的装備と空間的ゆとりに満たされた新校舎が平成26年3月に完成する予定です。今後も健全な財務体質を維持しながら、本学園に在籍する全ての学生生徒に、より一層充実したキャンパスライフを過ごして貰うための環境整備を鋭意進めてまいります。

収入・支出

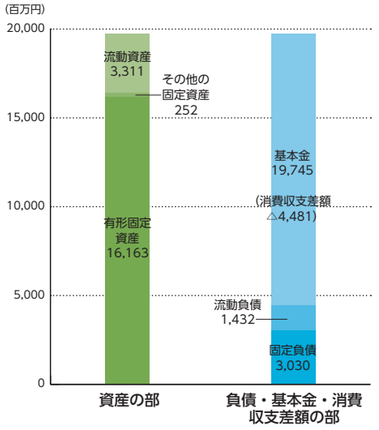
帰属収入（合計6,587百万円）



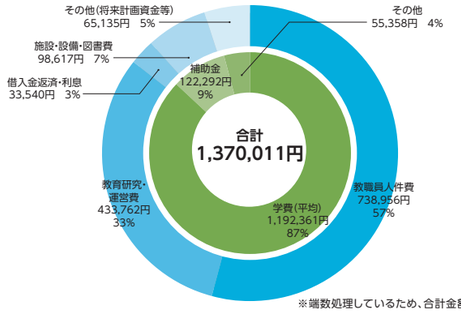
消費支出及び基本金（合計6,578百万円）



貸借対照表（平成25年3月31日現在）



学生一人あたりの収入・支出



※端数処理しているため、合計金額が一致しません。

有形固定資産	土地、建物、構築物、機器備品、図書、車両など。
その他の固定資産	借地権、電話加入権、施設利用権、有価証券（長期）、長期貸付金など。
流動資産	現金預金、未収入金、短期貸付金、有価証券（一時的）など。
固定負債	長期借入金、退職給与引当金など。
流動負債	短期借入金、未払金、前受金、預り金など。
基本金	学校法人がその諸活動の計画に基づき必要な資産を継続的に保持するために維持すべきもの。

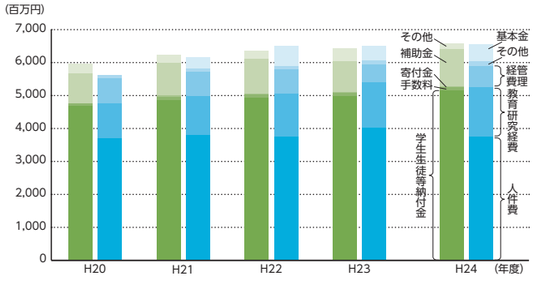
主要財務分析比率

単位（%）

比率	算式（×100）	評価	H23年度	H24年度	増減
自己資金構成比率	自己資金／総資金	↑	77.2	77.3	0.1
人件費比率	人件費／帰属収入	↓	62.8	57.0	△5.8
教育研究経費比率	教育研究経費／帰属収入	↑	21.2	23.0	1.8
管理経費比率	管理経費／帰属収入	↓	8.7	9.6	0.9
帰属収支差額比率	帰属収支差額／帰属収入	↑	5.6	8.3	2.7

※「評価」欄の「↑」は高い値が良い、「↓」は低い値が良いことを示しています。

収入・支出の推移



Extension News

公開講座のご案内——大学開放・地域連携推進センターから

2013年度10月～12月の「公開講座」

下記のとおり公開講座を開催します。ふるってご参加ください。公開講座のお知らせは、本学ホームページにも掲載しています。

桐華祭講演会

「魂の音を求めて―二代目高橋竹山津軽三味線の世界―」

日時▶10月26日(土)13:30～15:00

コーディネーター▶

星野敦子

(大学開放・地域連携推進センター長・人間生活学部生活情報学科教授)

講師▶**二代目 高橋竹山氏**

(津軽三味線演奏家)

定員▶200名

●埼玉まなびぃプロジェクト協賛事業

プロフィール▶

10歳より三味線に触れ、17歳の時に初代高橋竹山のレコードを偶然聴き衝撃を受け、18歳で内弟子入り、6年間の内弟子生活を経て独立。初代が亡くなるまでの25年間、初代と舞台を共にした。1997年二代目高橋竹山襲名(渋谷ジァン・ジァンで公演)、さまざまなジャンルの音楽家、舞踊、新劇の人々と共演し三味線と唄の「彩」を追求中。

講師の二代目高橋竹山氏

新座市内大学公開講座(全3回)

※第1回は終了しました。

第2回「虐待問題の現状と今後の課題を考える」

日時▶11月30日(土)13:30～15:30

コーディネーター▶

栗原直樹

(人間生活学部人間福祉学科教授)

シンポジスト▶

山本進氏

(公益社団 埼玉県社会福祉士会副会長)

高橋均氏

(埼玉県南児童相談所副所長)

川島志保氏

(横浜弁護士会、日弁連・高齢者障がい者の権利に関する委員会前委員長)

定員▶200名

内容▶虐待について児童、高齢者、障害者ごとに防止法の整備がなされていますが、依然として深刻な事例が発生しております。それぞれの法律の視点、実際の現場の状況などについて、第一線で取り組まれておられるスペシャリストをお招きして、問題提起していただきます。

第3回「伊達家作法に学ぶ日本人の美意識」

日時▶12月7日(土)13:30～15:30

コーディネーター▶

星野敦子

(大学開放・地域連携推進センター長・人間生活学部生活情報学科教授)

講師▶**池田峯公氏**

(伊達家伯記念會 仙台藩作法指南役)

定員▶200名

内容▶日本には礼法という美しい礼儀作法があります。礼法の基本的な考え方は室町時代から、伝統ある日本文化の一つとして武家社会の中で生かされてきました。仙台伊達家800年の歴史と共に受け継がれている礼法・仙台藩作法のなかから日々の暮らしに生かすことのできるエッセンスを作法指南役の池田先生から伝授していただきます。

予約方法・お問い合わせ先

各講座1カ月前より、予約の受付を開始いたします。参加希望の方は、必ず、事前にご予約ください。先着順で、定員になり次第締め切りとさせていただきます。1回ごとのお申し込みになります。

- 電話または専用メールフォームからのいずれかでお申し込みください。
- 専用メールフォームはホームページURLにアクセスの上、必要事項を記載いただき、お申し込みください。メールフォームは講座ごとに分かれております。「受付完了」の返信メールが届いた時点で「受付完了」とさせていただきます。定員超過の場合はご連絡させていただきます。

お申し込み・お問い合わせ先

社会交流支援課／大学開放・地域連携推進センター

TEL:048-477-0958(直通)　FAX:048-477-0764

【ホームページURL】

http://www.jumonji-u.ac.jp/outline/lecture/index.html

※右記QRコードからもお申し込みできます。

Admission Info

最新入試情報

平成26年度 入試日程

推薦入試

学部・学科(募集人員)					試験日	合格発表	出願資格
人間生活学部	幼児教育学科	60名	Ⅰ期	10/21(月)～10/31(木)	11/10(日)	11/15(金)	高等学校を平成26年3月卒業見込みの女性で、全体の評定平均値が3.3以上、専願とする。 【選考方法】 幼児教育学科▶調査書・面接・作文 児童教育学科, 人間発達心理学科, 食物栄養学科▶調査書・面接・小論文
			Ⅱ期	12/ 2(月)～12/ 9(月)	12/15(日)	12/18(水)	
	児童教育学科	23名	Ⅰ期	10/21(月)～10/31(木)	11/10(日)	11/15(金)	
			Ⅱ期	12/ 2(月)～12/ 9(月)	12/15(日)	12/18(水)	
	人間発達心理学科	30名	Ⅰ期	10/21(月)～10/31(木)	11/10(日)	11/15(金)	
			Ⅱ期	12/ 2(月)～12/ 9(月)	12/15(日)	12/18(水)	
	食物栄養学科	40名	Ⅰ期	10/21(月)～10/31(木)	11/10(日)	11/15(金)	
	人間福祉学科	20名	Ⅰ期	10/21(月)～10/31(木)	11/10(日)	11/15(金)	高等学校を平成26年3月卒業見込みの女性で、全体の評定平均値が3.2以上、専願とする。 【選考方法】▶調査書・面接
			Ⅱ期	12/ 2(月)～12/ 9(月)	12/15(日)	12/18(水)	
	生活情報学科	30名	Ⅰ期	10/21(月)～10/31(木)	11/10(日)	11/15(金)	
			Ⅱ期	12/ 2(月)～12/ 9(月)	12/15(日)	12/18(水)	
	メディアコミュニケーション学科	30名	Ⅰ期	10/21(月)～10/31(木)	11/10(日)	11/15(金)	
			Ⅱ期	12/ 2(月)～12/ 9(月)	12/15(日)	12/18(水)	
短期大学部	表現文化学科	60名	Ⅰ期	10/21(月)～10/31(木)	11/10(日)	11/15(金)	高等学校を平成26年3月卒業見込みの女性で、全体の評定平均値が3.0以上、専願とする。 【選考方法】▶調査書・面接
			Ⅱ期	12/ 2(月)～12/ 9(月)	12/15(日)	12/18(水)	

編入学試験

学部・学科(募集人員)					試験日	合格発表	出願資格
人間生活学部	幼児教育学科	3年次 10名	12/ 2(月)～12/ 9(月)		12/15(日)	12/18(水)	詳細は、2014年度編入学試験学生募集要項、または募集・入試課までお問い合わせください。 【選考方法】 幼児教育学科・人間福祉学科(社会福祉コース)・生活情報学科・メディアコミュニケーション学科 ▶小論文《60分・800字》、個人面接、出願書類 人間発達心理学科 ▶小論文《60分・800字》、英語《60分》、個人面接、出願書類
	人間発達心理学科	3年次 5名	12/ 2(月)～12/ 9(月)		12/15(日)	12/18(水)	
	人間福祉学科(社会福祉コース)	3年次 5名	Ⅰ期	12/ 2(月)～12/ 9(月)	12/15(日)	12/18(水)	
			Ⅱ期	3/ 3(月)～ 3/ 7(金)	3/14(金)	3/17(月)	
	生活情報学科	3年次 5名	Ⅰ期	12/ 2(月)～12/ 9(月)	12/15(日)	12/18(水)	
			Ⅱ期	3/ 3(月)～ 3/ 7(金)	3/14(金)	3/17(月)	
	メディアコミュニケーション学科	3年次 5名	Ⅰ期	12/ 2(月)～12/ 9(月)	12/15(日)	12/18(水)	
			Ⅱ期	3/ 3(月)～ 3/ 7(金)	3/14(金)	3/17(月)	

※編入学について個別に相談を行います。相談の日程については、募集・入試課までご相談ください。学科の授業内容、単位認定、資格取得、ゼミ等について説明します。編入学を希望する方は、できる限り相談を受けてください。 お問い合わせ:募集・入試課　0120-8164-10

オープンキャンパス

11月24日(日) 13:00～16:00

本学に入学を希望する方、興味をお持ちの方、ぜひご参加ください。

内容▶在学生によるキャンパスツアー、個別説明・相談、アカデミック展示、学生と話そうコーナーなどを予定しています。
〈予約不要、入退場自由〉

桐華祭進学相談会

10月26日(土)・27日(日) 10:00～15:00

大学の雰囲気を味わえる絶好の機会です。ぜひお越しください。

会場▶募集・入試課

内容▶個別説明と相談、募集要項(入学願書)や一般入試過去問題集などの資料配布を行います。〈予約不要〉

入試相談会

2月27日(木) 10:30開始

3月入試・AO入試の受験相談を受け付けます。受験を考えている方、志望する学科の教育に興味・関心のある方のご参加をお待ちしております。※AO入試は以下の学科で実施します。

[実施学科・入試形態]

▶対話形式・有資格形式

〈人間生活学部〉　人間福祉学科
生活情報学科
メディアコミュニケーション学科

〈短期大学部〉　表現文化学科

▶課題形式

〈人間生活学部〉　人間発達心理学科

入学試験検定料優遇および免除のご案内

本学(十文字学園女子大学、十文字学園女子大学短期大学部、十文字学園女子短期大学)卒業生の紹介による入試検定料優遇

本学卒業生のご紹介の方が受験する場合、検定料(大学35,000円、短大30,000円)が20,000円になります。ただし、大学入試センター試験利用入試を除きます。

※本学園を卒業された(見込みを含む)方が受験生をご紹介いただける場合は、本誌に同封の「卒業生紹介カード」に必要事項をご記入のうえお送りください。折り返し出願書類をお送りいたします。

本学園卒業生(卒業見込みを含む)の入学試験検定料免除

十文字学園女子大学、十文字学園女子大学短期大学部(十文字学園女子短期大学)、十文字高等学校卒業生(見込みを含む)の検定料は無料です。

※本学園を卒業された(見込みを含む)方ご本人が受験を希望される場合は、本誌に同封の「卒業生紹介カード」に必要事項をご記入のうえお送りください。折り返し出願書類をお送りいたします。

在学生の家族の入学試験検定料優遇

本学在学生の家族(姉妹、母など)が受験する場合、検定料(大学35,000円、短大30,000円)が20,000円になります。
ただし、大学入試センター試験利用入試を除きます。

※「在学生紹介カード」に必要事項を記入し、家族であることの証明ができるものを持参の上、募集・入試課窓口まで在学生がお越しください。出願書類をお渡しします。

●お問い合わせ　募集・入試課 0120-8164-10(はいろうよ！ 十文字)　E-mail: boshuu@jumonji-u.ac.jp